

[第 142 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5年 9月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5 年 10 月 7 日 (土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.270～(用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2023年9月16日(土)、第141回藤樹人間学塾を開きました。今回は京都、大津からの参加者、初参加者を入れて9名でした。

■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第五巻 仁虐報の第3話～第5話

■ あらすじ

第3話 楊誠斎の夫人の羅氏は仁徳高く70余歳の時にも朝早く起きて自ら粥を煮て使用人に食べさせてから彼らを使った…。第4話 胡泰の母は気性が荒く無明(邪見妄執)であったので鶏に生まれ変わった…。第5話 元寛の妻は夫が早く亡くなったが貞節を守り、2人の子供を育て、自ら詩書を教え学問にはげませた…。



■ 配布資料

(1)「まなざし460号」、(2)「仁について」、(3)「慶応 野球を楽しむ」、(4)「学問ノススメ初編」、(5)「無明こそ最大の咎である」、(6)「久子夫人を迎える」(物語中江藤樹)他

■ 今日のポイント

- ・ 羅氏は仁の行為を楽しんでやっていた。楽しむことが大事。
- ・ 仁は儒教で人間にとって最も普遍的で包括的、根源的な愛とされる。
- ・ 慶応高校は「楽しむ野球」で日本一になった。楽しむことで苦勞を乗り越えられる。
- ・ 無明(真理に暗い)を除くために必要なのは光明であり、親鸞はこれを智慧の光明と呼び、私たちがその光に出遭うならば生死、善悪を初めとする二元相対の世界を離れ、ついに仏になるとした。
- ・ 二元相対の世界(この世)は目に見えるので分かり易いが、一元絶対の世界(大宇宙、神、仏)は目に見えないので分かりにくい。しかし私たちの身体が夜寝ているときも呼吸をし、生命を保ってくれていること等のはそのおかげであり、この世と密接につながっている。

■ フリートーキング

- ・ ヨング(100年前の心理学者)と中江藤樹には共通項がある。
- ・ 一元絶対の世界があることが分かって興味深い。この塾は貴重な機会(場)だ。
- ・ 多角的に議論ができて楽しかった。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。